

第1学年1組 道徳科指導案

- 1 主題 D- (19) 生命の尊さ (本時1/1)
 教材:「たったひとつのたからもの」 『たったひとつのたからもの (加藤裕美 文藝春秋)』
- 2 本時のねらい
 秋雪さんと両親の幸せを考えることによって、自分自身や周りの人を大切にしていこうとする気持ちを高めることができる。
- 3 展開

段階	生徒の活動	教師の活動
導入 (5)	1 今、幸せに感じていることについて発表する。 ・ゲームをしているときに幸せ。 ・そんなこと考えたことがない。	・教材文の「幸せ」と比べられるようにするために、自分自身の「現在の幸せ」についての考えを浮き彫りにする。
課題 (2)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px auto; width: 60%;"> 本当の幸せとは何かを考えよう </div>	
展開 (33)	3 教材文「たったひとつのたからもの」の範読を聞く。 4 教材文の感想を発表する。 ・1年しか生きられないって言われたのに6年間も生きるなんてすごいな。 ・ダウン症っていう障害があるのに、さらに重い心臓病もあるなんてかわいそう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px auto; width: 60%;"> 中心発問「秋雪くんは幸せだったと思いますか。」 </div> 5 ワークシートに自分の考えを記入する。 6 中心発問についてチームで話し合う。 <幸せだ> ・6年間も生きられたのだから幸せ。 ・写真の笑顔を見ると幸せだったと思う。 ・親から一生分の愛情を注がれたと思うから。 ・秋雪くんがいたことが家族の幸せだったと思う。 <不幸せだ> ・友達といろんなことをして遊びたかったと思う。 ・普通の子のように生活したかったと思う。 ・いつも両親に自分の死を考えさせてしまったから。 ・両親よりも長く生きられなかったから。 7 話し合いを振り返り、本当の幸せについて話し合う。 ・家族と過ごすこと ・今生きていること ・みんながいること ・当たり前のことができること	・教材文を整理するために、「秋雪くん」の生涯がわかる写真を貼付する。 ・生徒自らの課題となるように、「心に残った場面」を問い、その理由を簡単に確認する。
終末 (10)	8 『たったひとつのたからもの』のエピローグを聞く。 9 新しく気付いたことや大事にしたいことなど授業の感想をワークシートに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> ・今まで苦手なことがあると、すぐに嫌だ、不幸だと思ってしまっていたけど、そういうことに挑戦できるのも幸せなんだと感じた。 ・両親や周りの人の存在がありがたいし、自分もそういう存在になっているのかなと思えて、嬉しく感じた。 </div>	・考えをまとめる時間を確保するためにワークシートを配付し、考えを書くように指示する。 ・自分の考えに自信をもったり深めたりするために、チームで話し合う場を設定する。 ・「幸せ」を多面的・多角的に捉えるために以下のことについて補助発問をする。 ①6年という短命で人生を終えたことについてどう思うか。 ②秋雪さんの両親は幸せだったのだろうか。 ③秋雪さんと両親を考えたときの違いは何だろうか。 ・自分事として考えるために、秋雪くんにとっての「幸せ」を整理し、「あなたにとって本当の幸せとは何か」と補助発問をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <エピローグより> ・「人の幸せは命の長さではないのです。」 ・「もう少しで1年生になれたのに」たった3か月先がいかに遠い将来であったか。 ・今現在を楽しく元気に過ごせたら、それが一番大切で喜ぶべきこと。これは、秋雪が教えてくれたこと。 </div> ・互いの学びや気付きを共有するため、数名の生徒を指名し、感想を発表するよう指示する。

- 4 評価
 秋雪さんと両親の幸せについて考えることから、自分自身も周りの人の幸せに関わっていることに気づき、自他の命を大切にしようとする心情を高めることができたか。(活動6、7の発言やワークシートの記述から)